

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670102500
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ西陵
訪問調査日	平成20年5月26日
評価確定日	平成20年7月28日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法**[取り組みの事実]**

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2006年6月2日

[評価実施概要]

事業所番号	4670102500
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ西陵
所在地	鹿児島市西陵5丁目12番4号 (電 話) 099-282-2497

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48-13		
訪問調査日	平成20年5月26日	評価確定日	平成20年7月28日

[情報提供票より] (20年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 14.05 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	36,000 円	その他の経費 (月額)	18,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 300 円 夕食 400 円 または1日当たり 円	昼食 400 円 おやつ 円	

(4) 利用者の概要 (4月26日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1		要介護2 1 名	
要介護3	7 名	要介護4 8 名	
要介護5	2 名	要支援2 名	
年齢 平均	88 歳	最低 81 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院 西歯科医院
---------	--------------

[外部評価で確認さ 5E+09]

ガラス張りの明るい広々としたモダンな建物に2ユニット(1階、2階)を有する、医療法人春風会を母体とするグループホームである。周囲は学校、大型ストア、銀行があり、交通の便も良く人通りの多い恵まれた環境にある。介護度の高い利用者も多いが口腔ケアに力をいれ、感染症予防にも取り組んでいる。開設6年が経過し、認知症介護も習熟し、問題行動にも心配りを欠かさず対応できている。個性をとりえた支援に職員のチームワークを発揮し取り組んでいる。全職員で考えた年間目標の実践に努め、その成果も確認でき、利用者・家族・職員が笑顔で過ごせる「はるかぜ西陵」を実感できるホーム運営となっている。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回、特別な指摘事項はなかったが、評価調査員から気づきのコメントをもらい改善に向けている。(利用者家族へのアンケートの件、利用者個人の様子を家族にお便りするなど。)
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 管理者、職員は評価の意義を理解している。自己評価は各ユニットの職員で取り組み、調査員のコメントなどを参考に改善を実践し、サービスの質向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 行政職員、地域住民の代表者、中学校のPTA役員など幅広い人の参加を得て開催されている。夏祭りの際の安全対策、地域の連携などについて意見交換されている。討議内容をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族の意見、不満、苦情を管理者や職員に表せるよう、話しやすい雰囲気作りを心がけている。出された意見、苦情などは職員会議で話し合い、対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 町内会に加入し、地域の情報をもらっている。中学校より車イスを寄贈してもらったり、おはら祭り、夏祭り参加、地域清掃に取り組むなど、地域との連携が取れている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員全員で作り上げた理念である。20年度は気配り・欲ばり(現状に満足せず、より良いケアの追求)・思いやりを年間目標に掲げ、ケアに活かしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やホール、パンフレットにも掲示がなされている。毎朝、職員全員で唱和し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の情報をもらっている。月1回、地域清掃にも取り組んでいる。おはら祭り、夏祭りに参加したり、中学校より車イスの寄贈があったり、地元の人々と交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解している。前回の評価結果も職員会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成メンバーの中に中学校PTA役員の参加もある。利用者の日々の暮らしやサービスの内容など報告している。運営推進会議での意見をサービス向上に活かしている。(おおむね2ヵ月に1回の開催を計画している。)		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	さまざまな相談を市の高齢者福祉課と行っている。運営推進会議に市の職員の参加もあり、行き来する機会が増え、ホーム運営の相談などしながら関係作りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、担当課の発行する利用料の請求書とともに小口預かり金の金銭出納帳、西陵だよりを個々の家族などに郵送している。	○	ホーム利用料の請求書はホーム管理者がチェックし確認後発送することが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を出しやすい雰囲気作りを心がけている。外部評価の家族アンケート結果や出された要望は職員会議で話し合い、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの本来のあるべき姿を認識し、職員、利用者、家族とのなじみの関係を重要視したケアを心がけている。やむなく異動、退職の場合も利用者への影響を最小限にする為、職員全員で不安がないように配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、研修委員会を開催している。外部研修にも積極的に参加し、研修報告を職員会議の時に発表している。資格取得希望者には資格手当を出して奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島県、鹿児島市のグループホーム協議会に加入し、随時、勉強会や交流ができてサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望の際には利用者、家族にホーム見学をしてもらい、十分な説明と利用者の生活状態、思いや不安を十分聴いて信頼関係が築けるよう取り組んでいる。職員間で情報共有し、個々の状態に合わせて早くなじみの場所になるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添い、傾聴に心がけている。一緒に過ごしながらか喜怒哀楽をともにし、慰め合ったり教わったり、支えあっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や日々の生活の中で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、本人の意思、希望の把握困難な場合も職員・家族の話し合いをし、利用者本人の気持ちになって検討し本人本位の日常生活の確保に努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成に当たっては本人、家族、職員を交えたサービス担当会議を開き、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。(気づきノートを生かし、活用されている。)		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。状態変化があった時はその都度、サービス担当者会議を開き、変更計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の要望に応じた移送サービス、特別な外出支援など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について家族へ説明、対応を確認している。早い段階から話し合いをもって全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員はもちろんの事、ボランティアにも誓約書をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間をベースにある程度規則正しい生活、張りのある生活を支援しているが、利用者の希望に応じ、一人ひとりの体調など考慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力を活かしながら野菜の下ごしらえ、片付けなど職員とともにやっている。食事を生活の中で一番の楽しみとしてとらえ全員で食卓を囲み、笑顔の中で食事がとられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回(火木土)の入浴日が決められているが、利用者の希望(入る順番、時間、友達同士)があれば対応し、入浴を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌や散歩を楽しんだり、お経を読んだり、新聞の購読とそれぞれ好きな事の把握に努め、楽しみごと気晴らしの支援をしている。故郷訪問、外食など外出を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など一緒に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアには鍵はかけられてない。階段にセンサーが設置してある。見守りを重視し、外出時にはさりげなく声かけし、一緒について行くなど安全面に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(昼間、夜間想定)火災訓練を近隣施設と連携し、実施している。	○	近隣消防団との連携について運営推進委員会などの議題にあげ、話し合い、検討される事が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個人日誌に記録、栄養バランスも栄養士がチェックしている。水分補給にも見守り、声かけしながら注意を払っている。(体調の悪い時、熱発時は水分補給のチェックをしている。)利用者の状態に応じてきざみ食、ミキサー食、お茶とろみの支援ができてい		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面ガラス張りの開放感のあるホールで心地よく、季節感が感じ取れる飾りつけ(五月人形)など工夫をしている。玄関アプローチにはたくさんの花や植物の鉢をおいて利用者が観賞し楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室、洗面所つきである。写真が飾ってあったり、琴がおいてあったり、利用者の生活暦や個性が感じ取れる居室になっている。日当たりも良く窓越しに布団が干せて気持ち良く過ごせる居室になっている。		